

第3回自主的安全性向上・技術・人材 WG 資料に関するコメント

名古屋大学 山本章夫

○人材育成について

- ・原子力安全の確保のためには、事故時を含む様々な運転状態におけるプラントの挙動を、ベースとなる物理現象から理解し、説明できることが重要であると考える。すなわち、様々な状態におけるプラントの挙動を、「覚える」のではなく、「物理現象から組み立てて説明できる」人材を増やす必要がある。
- ・このためには、様々な物理現象を記述・定量化するための数学・物理・化学などをベースとして、「古典的な」工学の基礎を身につけることが重要であり、これは、大学教育における大きなミッションであると理解している。
- ・一方、現実のプラントを維持管理し、安全を確保していくためには、より「現場ベースの」知識やスキルが必要となる。
- ・上記の二つは相補的なものであり、現場ベースの知識やスキルの取得にあたり、様々な工学の基礎の必要性が改めて理解されることも多い。逆に、実際の活用例が意識されることで、基礎の習得に関する学習意欲が増加することも考えられる。
- ・産業界は、短期の研修を含め、大学や研究機関における研鑽をより重視すべきであろうし、また、大学・研究機関は、産業界のニーズに適合した社会人向けの研修プログラムを体系的に整備していく必要がある。
- ・大学・研究機関における研修は、単発ではなく、スキルとキャリアを向上させるために、決まった期間ごとに繰り返し様々な科目を受講することが有用であろう。
- ・なお、可能であれば、海外のロールモデルを今後 WG でご紹介頂き、議論の参考にさせて頂ければと考えている。
- ・また、時間が許せば、ご講演頂く Yang 博士に、産業界(GE)での御経験が EPRI における博士の活動にどのように役立ったか、コメントを頂きたい。

以上